



東地中海地域ニュース

シリア：大統領のイラン訪問

(2月17-18日付現地報道)

2月17-18日、バッシュール・アサド大統領がイランを公式訪問し、ハメネイ最高指導者、アフマディネジャード大統領、ラフサンジャニ公益評議会議長等と各々会談した他、アフマディネジャード大統領と記者会見を開き、共同声明を発表した。

1. 共同声明要旨 (18日)

(1) 両国関係

会談は友好的、協力的、建設的な雰囲気の中で行われ、両国の政治・経済・通商関係について協議した。シリア・イラン高等経済委員会合を成功させる為に両国の努力を結集させる必要がある。両国間の経済・技術協力を高く評価する。両国のあらゆる資源から利益を得る必要がある。

(2) 中東問題

両国は、中東地域でのイスラエルの継続的な攻撃及び拡大政策を非難し、1967年の国境線までゴラン高原を回復するシリアの権利を全面的に支持する。「神殿の丘」を攻撃したシオニストの冒瀆的行為を非難し、OICを代表とする国際機関に聖地に対する攻撃的破壊行為防止への取り組みを求める。又、パレスチナ挙国一致内閣の樹立に向けたマッカ合意を歓迎し、パレスチナ人民の結束、帰還権、主権国家樹立の権利を全面的に支援する。

(3) イラク問題

両国は、外国軍の撤退を確保し、アラブ・イスラム・アイデンティティを維持する為にイラク政府、イラクの領土的統一、独立及び主権を支援すると共に、国民和解に向けたイラク政府及び他勢力の努力を支援し、イラク国民の結束とイスラム世界指導者の努力の結集を求める。

(4) イラン核問題

核不拡散条約加盟国は核の平和的利用権をもつ。発展途上国の権利を先進国の権利と区別することは受け入れられない。関連決議やイランを含む核不拡散条約加盟国の政策及びイランの核燃料生産サイクルの保有は尊重されなくてはならない。イランの平和的な核利用は、国際原子力委員会 (IAEA) を通し、前提条件なしに対話及び外交的手段により対処されるべきである。

2. 共同記者会見での発言 (18日)

(1) アサド大統領： 今回の訪問は、外国勢力が中東地域に対する力による一方的な政策の失敗と同時期に行われた。アラブ・イスラム諸国の人々は、アラブ・イスラム諸国及びその人民の歴史・文化を宗派的闘争に置き換えてイスラム世界を分裂させようとする陰謀に気づかねばならない。

(2) アフマディネジャード大統領： 両国は国際問題、中東問題に対し同様の見解をもち協議している。敵の陰謀に対する政策調整の為、両国は要人訪問を強化する必要がある。両国の協力及び努力は人民の利益を擁護し、陰謀に立ち向かう礎となる。アサド大統領の訪問は成功裏に終わり、両国は同訪問の結果をフォローアップする。